

原発発注で4条件

ベトナム首相、燃料供給など提示

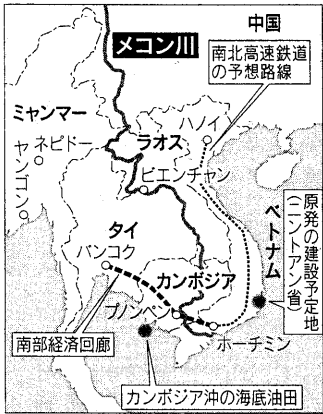
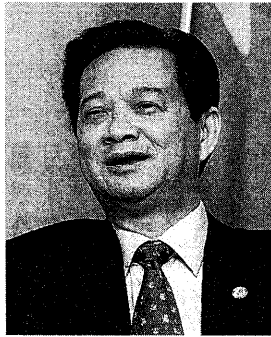
ベトナムのグエン・タン・ズン首相は7日の日本経済新聞との会見で、原子力発電所の建設計画で日本の協力を期待を示すと同時に、発注先選定に関して安全性、核燃料の安定供給などの4条件を提示した。同国の三大国家プロジェクトの一つである「南北高速鉄道」でも価格、技術移転など4条件を挙げた。双方の事業で受注が有力視される日本とフランスを最後まで競わせ、より有利な条件を引き出すとの狙いがあるといわれる。(一面参照)

日仏競わせ交渉優位に

高速鉄道技術「欧州も検討」

ズン首相は会見のほか「明言。その可能④安全で効率的な原発でも回答を寄せた。原発発注に関して「原子力発電の分野では日本もフランスも大団だと認識する」核燃料の安定供給が条件になる」と表明した。重工業「日立製作所」のオ

質問に答えるベトナムのズン首相(7日、東京都千代田区)



カンボジア首相 書面回答



フン・セン首相

資源開発へ外資を誘致 油田探査権、日本と交渉

【ハノイ】岩本陽一「面回答し、資源・エネルギー分野を成長のけん引役として育成する方針を明らかにした。外資の誘致に石油・ガス関連の開発事業を推進、原油輸出を増やしインフラ整備などに充てる。同首相は「石油からの歳入が国家財政にとって極めて重要」と表明し、早ければ2012年に商業生産が始まることされる国内初の石油開発事業の進展に強い関心を示した。タイ湾での同事業には米シェブロン、三井石油開発などが参加している。首相は日本の独立行政法人、石油天然ガス・

ベトナムの原発建設プロジェクト

建設予定地は南部のニントアン省。省内2カ所に中型炉4基を建設する。発電能力は1基当たり100万キロワットで、全体で400万キロワットを見込む。プロジェクトは2つに分割される予定で、先行するニントアン1は2020～21年、ニントアン2は21～22年の操業開始をめざす。同国政府は50年までに総発電量の2割を原発で賄う計画。火力から原子力発電へのシフトを進めることで温暖化対策も推進する。

ズン首相の発言・回答要旨

「ルジャパン」が挑む構図だ。日本勢には、高い技術と多くの実績を持つ米ウエスチングハウスやゼネラル・エレクトリック(GE)などとの深い関係が武器。経済産業省も全面支援するなど「官民のスクラムに不安はない」(原発メーカー幹部)。ただ仏陣営は今春、ベトナム側に核燃料サイクルと本体工事を包括提案したとされ、猛追する日本勢を突き放そうとした。核燃料サイクルはアレバの得意分野。同社は核燃料の加工、使用済み核燃料の再処理、廃棄物対策で数々の実績がある。ズン首相が4条件で核燃料供給に言及したことは、日本勢には逆風となる可能性がある。

ズン首相は「経済危機のなかで貴国が対策を講じ、1～9月は4.5%の経済成長を維持した。海外からの直接投資は10カ月に189億ドル。今年は5.2%、2010年は6.5%成長を回復する。効率性や競争力の向上に努め経済構造改革を加速させた。電子機器、通信、ソフトウェアなどの先端産業を重視している。」

原子力エネルギー分野では日本の技術や経験、特に高度な安全性を高く評価している。20年に我々の国初の原子力発電所を稼働させようという目標に、新幹線は技術や安全性が高い。導入にあたっては価格や資金調達、人材育成と技術移転への協力も判断材料となる。

日欧をてんびんにかけて条件交渉を優位に進める戦略を明らかにした。条件提示で外資を競わせる戦略には、大規模プロジェクトにおける政府の関与を強めたいという意向がにじむ。しかし交渉が難航すれば「2020年の工業国入り」という大目標の達成に影響を及ぼす可能性もある。

東アジア共同体に関する鳩山由紀夫首相の提案に大いに関心がある。共同体は地域の様々な枠組みがめざす長期的な目標で、鳩山首相のイニシアチフは協力を促進する構想の一つだ。ベトナムは10年に東南アジア諸国連合(ASEAN)の議長国を務めるが、加盟国や日本などパートナーとの関係を強化したい。

金属鉱物資源機構(JOGMEC)がカンボジア政府と「最近、油田探査権に関する交渉を始めた」とも指摘。日本企業の投資に期待を示した。メコン地域のインフラ整備では、国際幹線道路「南部経済回廊」完成へ日本に支援を要請した。

の開発事業を推進、原油輸出を増やしインフラ整備などに充てる。同首相は「石油からの歳入が国家財政にとって極めて重要」と表明し、早ければ2012年に商業生産が始まることされる国内初の石油開発事業の進展に強い関心を示した。タイ湾での同事業には米シェブロン、三井石油開発などが参加している。首相は日本の独立行政法人、石油天然ガス・